

情報科学研究科 アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

博士前期課程	博士後期課程
<p>情報の科学と技術に強い関心があり、その知識と技術を高めることによって社会の発展のために自らを生かしたいという意欲のある人。</p> <p>情報の科学と技術に関する基礎的な知識・技能を持ち、情報システム、情報メディア、ロボティクスまたはシミュレーションの技術に関する専門的な能力をそなえた人。</p> <p>上記の知識・技能を利用して、情報の科学に関する新たな理論、技術、または、サービスを提案、開発できる人。</p>	<p>情報の科学と技術に強い関心があり、この学問分野の将来的な発展のために寄与することを目指す意欲のある人。</p> <p>情報の科学と技術に関する高度に専門的な知識・技能を十分にそなえた人。</p> <p>情報の科学と技術に関する研究を主体的に行なうことができる人。</p>

2. 入学者評価の基本方針：「求める学生像」に基づき、各選抜試験を行います

			博士前期課程	博士後期課程
評価試験種別	一般学生	評価する能力	筆記試験では、情報科学の学問分野の基礎となる数学、情報数学、アルゴリズムに関する基礎的な知識・技能を評価する。外部英語検定試験では、研究者として必要とされる実践的な英語運用能力を評価する。面接では、情報科学に対する関心・意欲、主体的に研究しようとする姿勢を評価する。	筆記試験では、情報科学の基礎科目、専門科目を課すことで、情報科学分野の広範囲の専門知識ならびに専攻する分野に関する深い知識・技能を評価する。外部英語検定試験では、研究者として必要とされる実践的な英語運用能力を評価する。口述試験で研究に関するプレゼンテーションおよびそれに関する口頭試問を行なうことで、専攻する分野に関する深い知識、これまでの研究実績、情報科学に対する関心・意欲、主体的に研究しようとする姿勢を評価する。
		評価方法・比重	専門(数学、情報数学、アルゴリズム)、英語外部資格試験(TOEIC、TOEFL、IELTS)、面接 専門、英語、面接の比重は4:1:1とする。	専門(基礎科目、専門科目)、英語外部資格試験(TOEIC、TOEFL、IELTS)、口述試験(プレゼンテーション、口頭試問) 専門、英語、口述試験の比重は1:1:1とする。
	社会人学生	評価する能力	口述試験で研究に関するプレゼンテーションおよびそれに関する試問を行なうことで、情報科学の基礎・専門的な知識、ならびに情報科学に対する関心・意欲、主体的に研究しようとする姿勢を評価する。	口述試験で研究に関するプレゼンテーションおよびそれに関する試問を行なうことで、情報科学の高度に専門的な能力、これまでの研究実績、ならびに情報科学に対する関心・意欲、主体的に研究しようとする姿勢を評価する。
		評価方法・比重	口述試験(プレゼンテーション、口頭試問)	口述試験(プレゼンテーション、口頭試問)

外国人留学生	評価する能力	筆記試験では、情報科学の学問分野の基礎となる数学、情報数学、アルゴリズムに関する基礎的な知識・技能を評価する。外部英語検定試験では、研究者として必要とされる実践的な英語運用能力を評価する。面接では、情報科学に対する関心・意欲、主体的に研究しようとする姿勢とともに、日本語運用能力を評価する。	筆記試験では、情報科学の基礎科目、専門科目を課すことで、情報科学分野の広範囲の専門知識ならびに専攻する分野に関する深い知識・技能を評価する。外部英語検定試験では、研究者として必要とされる実践的な英語運用能力を評価する。口述試験で研究に関するプレゼンテーションおよびそれに関する試問を行なうことで、専攻する分野に関する深い知識、これまでの研究実績、情報科学に対する関心・意欲、主体的に研究しようとする姿勢を評価する。
	評価方法・比重	専門(数学、情報数学、アルゴリズム)、英語外部資格試験(TOEIC、TOEFL、IELTS)、面接 専門、英語、面接の比重は4:1:1とする。	専門(基礎科目、専門科目)、英語外部資格試験(TOEIC、TOEFL、IELTS)、口述試験(プレゼンテーション、口頭試問) 専門、英語、口述試験の比重は1:1:1とする。